

教員の養成の目標

現在の子どもたちを待ち受けているのは、AI技術が加速度的に進化した予測もつかない未来社会に他ならない。そこでは、人間固有の想像力や創造力、感性がより本質的な形で問われることになる。教師は、子どもの発達段階に寄り添いながら、そうした人間性や能力・感覚を育成していかねばならない。

また同時に、格差が進行しつつある今日の社会においては、「一般福祉の原理」（すべての子どもたちの自由と幸福とを実質化すること）を実現するために、子どもたちのなかに、「お互いがお互いの自由と尊厳とを承認する」意識や感度を育てていく必要がある。

したがって教師は、当たり前のことであるが、未来の社会（それはわが国にとどまらず、地球規模での市民社会をさす）に対して非常に大きな使命と責任とを背負っている。

文部科学省は、平成28年12月の中教審答申において、①「社会に開かれた教育課程」：カリキュラムマネジメントなどの考え方、②「何が出来るようになるか」：育成をめざすべき資質能力、③「どのように学ぶか」：対話的・主体的で深い学び、といった視点を明確に打ち出している。

このことは、“子どもたちにとっての学習モデル”である教師の立場からすれば、①社会との関係構築力を教師自身がエンパワーメントする必要がある、さらに教師は、②未来型の資質能力を正確に理解し身につけながら、③学習方法のデザイン力を磨くとともに、学習のプロとしての「自ら学び続ける教師」でなくてはならない。

2019年度からスタートする新教育課程では、「小学校英語」や「道徳」、「総合的な学習の時間の指導法」などの科目が新設されると同時に、「コアカリキュラム」に沿った講義内容や教育方法（特に各教科の教育方法）の充実などを大学の教職課程において保証することが求められている。さらには、大学独自の科目をカリキュラムのなかに工夫し創設することも提言されている。

大学の教職課程は、教師のライフコースにとって、重要な「はじめの一步」だと考えることができる。もしもこの一步に躓いたり、教職という仕事に対して無責任な考えを持つとすれば、将来にわたって取り返しのつかないことになりかねない。それだけに、本学においても、従来の教職課程はもちろんのこと、新しくスタートする教職課程への社会的責任を深く自覚し、その充実のための努力を継続・傾注してゆく必要がある。

また、学生自身も、教師のキャリア形成の在り方を、十分に自覚し、教職課程のカリキュラムを学ぶなかで、自分自身のキャリアデザインを構想してゆくことが肝心である。

本学は、3学部6学科という規模に比して、多彩な教育免許の取得が可能である点に大きな特色がある。教育水準でいえば、幼稚園から高等学校の免許まで数多くの一種免許が配置してある。

具体的には、国際文化学部では、音楽学科において中・高の音楽一種免許が、そして国際文化学科では、英語、国語の中・高一種免許を取得することができる。また、経済学部では、高校の商業、地歴、公民、情報の一種免許と、中学社会一種免許が取得可能である。さらに、福祉社会学部では、児童学科において、幼稚園、小学校の一種免許が、社会福祉学科では、高校の福祉、公民の一種免許と、中学社会一種免許、特別支援教育の一種免許の取得が可能である。さらには、大学院に進学することで専修免許を取得することも可能である。具体的には、経済学研究科において中学社会専修免許と高校公民と商業の専修免許が取得できる。福祉社会学研究科では、高校福祉の専修免許、国際文化研究科では、中・高の英語、国語の各専修免許が取得可能である。

本学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つのポリシーに基づき、各学部・各学科が、その専門的特長を最大限に教職の専門性へと反映・発揮できるようにFDやSDに常日頃から積極的に取り組んでいる。例えば、「研究教育開発センター」を中心にして、授業公開や授業参観を準義務化しており、授業内容のレベルアップを図る取組みを長年にわたって継続しているところである。

特に教職に関連した専門科目については、アクティブ・ラーニングをベースとした講義を行うことで、教育現場にこれから求められていく「主体的・対話的で深い学び」そのものの「範例」となることをめざしている。

加えて、授業アンケート等の結果やコアカリキュラムの指針等を踏まえながら、シラバスの内容や授業方法の見直し・改善を伴うPDCAサイクルを意識的に実行・継続していくことになる。

本学は1932年の「鹿児島高等商業学校」創設以降、長い伝統のなかで、地域社会のみならず、国際社会への発展に寄与する多くの優れた人材を輩出してきた。本学学則には、次のように記されている。

「本学は、鹿児島の進取開明の伝統を継承しつつ、東西文化の融合を趣旨とする建学の精神に則り、社会科学及び人文科学の重きを置く学術的知識・技能の教育研究を推進し、国際社会及び地域社会の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。」（鹿児島国際大学学則第1条）

このような大学全体の高邁な教育目的を基礎として、教職課程で学んだ卒業生たちの多くが、地域社会における教育分野での発展に寄与する貴重な人材として、県内をはじめとする多くの学校で教師として活躍している。

今後とも、こうした本学の歩みや実践をさらに豊かなものにするとともに、「地球規模での持続可能な社会」を実現するための教育実践に寄与できる素晴らしい教師を、一人でも多く輩出することをめざして、大学全体で真摯に取り組んでいく必要がある。